

## 事業名 阿蘇山一周 100 kmチャレンジキャンプ～大草原からの贈り物～

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家  
 [後援] 熊本県教育委員会 阿蘇郡市教育委員会  
 [期日] 令和4年8月7日(日)～8月13日(土)【6泊7日】  
 事前説明会 令和4年7月31日(日)  
 [活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家  
 [参加者] 23名(小学生15名、中学生8名)  
 [協力団体] 南阿蘇ファームキャンプ【食事プログラム(夕食)】  
 [担当職員] 6名  
 [ボランティア] 5名

## 1. 趣旨

自然環境に恵まれた「阿蘇」の大地をフィールドとして、100 kmの長距離ハイキングやキャンプ活動等を通して、同じ目的をもった仲間とともに困難に挑戦し、最後までやり遂げる力を育むとともに他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣を身に付ける。

## 2. 目標

- (1) 参加者の8割が最後までやり遂げる力が身に付いたと答える。  
 (2) 参加者の8割が友達と仲よくなり、思いやりをもった行動ができたと答えることができる。

## 3. 事業展開

## (1) 行程

期日	行程							宿泊場所
1日目 8月7日 日曜日	第1話「阿蘇始まりの地へ」 9:30 10:00 11:00 12:00 15:00 16:00 21:30 受付 開会式 出発 阿蘇神社 小嵐山 入浴 夕食 就寝							移動距離 10.4km 累計 10.4km 水辺ふれあい公園
2日目 8月8日 月曜日	第2話「阿蘇始まりの地へ」 4:30 6:30 10:00 12:00 15:00 16:00 21:30 起床 水辺ふれあい公園 大観峰 木落牧野入口 小嵐山 入浴 夕食 就寝							移動距離 17.7km 累計 28.1km 水辺ふれあい公園
3日目 8月9日 火曜日	第3話「立野からのメッセージ」 4:30 6:00 12:00 16:00 17:00 21:30 起床 水辺ふれあい公園 新阿蘇大橋 あざみヶ池公園 入浴 夕食 就寝							移動距離 19.1km 累計 47.2km 米塚下園地
4日目 8月10日 水曜日	第4話「vs阿蘇五岳」 4:30 6:00 10:00 12:00 16:00 17:00 21:30 起床 米塚下園地 草千里 牧場展望所 南阿蘇西小 入浴 夕食 就寝							移動距離 23.8km 累計 71.0km 南阿蘇西小
5日目 8月11日 木曜日	第5話「済んだ水のように」 4:30 6:00 11:30 16:30 17:00 21:30 起床 南阿蘇西小 明神池公園 月廻り温泉 入浴 夕食 就寝							移動距離 16.4km 累計 87.4km 月廻り公園
6日目 8月12日 金曜日	第6話「最後の難関」 4:30 6:00 9:00 15:00 17:30 21:30 起床 月廻り公園 日ノ尾峠 交流の家 入浴 夕食 就寝							移動距離 19.0km 累計106.4km 交流の家 体育館
7日目 8月13日 土曜日	最終話「大草原からの贈り物」 6:30 9:00 10:00 12:00 起床 片付け 閉会式 解散							累計106.4km

## (2) 実際の活動



【開会式で決意表明 (1日目)】 【根子岳を背にして (1日目)】 【大観峰で集合写真 (2日目)】 【阿蘇大橋を渡る (3日目)】



【阿蘇五岳に挑戦 (4日目)】 【南阿蘇の水源地巡り (5日目)】 【感動のゴール (6日目)】 【共に過ごした仲間とのキャンプファイヤー (6日目)】

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

- 「チームの人がいたからこそ、目標を達成できた」「あきらめそうになりながらも、仲間のおかげで最後までやり遂げた」「以前は、きつくてあきらめそうだったけれど、この事業を通して、あきらめない心が大きくなった」など、最後までやり遂げる力については19名(69.6%)が「身に付いた」、6名(26.1%)が「だいたい身に付いた」と答えており、仲間の大切さを味わうとともに、あきらめずに最後まで挑戦する力を身に付けることができた。
- 「最初は不安だったけれど、一緒にたくさん話すことができた」「友達のよいところをたくさん知ることができた」「初めて会って何日かはぎこちない会話しかできなかったけれど、日が経つにつれてたくさん話をして仲よくなれた」など、友達については21名(91.3%)が「仲よくなれた」と答え、初めて会った仲間がかけがえのない友達となるような事業にすることができた。
- 「自分のことだけでなく、相手の体調を考えて行動することができた」「キャンプを通して、人とどう接すればよいか分かった」など、思いやりのある行動は17名(73.9%)が「とてもよくできた」、5名(21.7%)が「できた」と答えており、ほとんどの参加者が集団歩行の中で思いやりの心をもった行動ができるようになった。
- 阿蘇医療センターと連携をして、事前にいただいたアドバイスを事前説明会や職員研修に生かすことができた。熱中症や新型コロナウイルス感染症対策を行い、より安全に活動することができ、23名全ての参加者が無事にゴールをすることができた。

### (2) 課題

- 参加者がルートを間違えることが2度あった。スタッフには写真入りの地図を配ったが、参加者にも分岐点の写真やトイレ、危険個所が明記された地図を配布するなど見直しをもって活動できるような工夫を行う必要がある。
- 計画した1日の移動距離が長すぎたり、計画していた活動ができなかったりすることがあった。移動距離やタイムスケジュール等の見直しを行う必要がある。
- 熱中症対策や新型コロナウイルス感染症対策を中心に行ったが、日焼けや草負けなどの対策も事前に周知し、望ましい服装で活動できるようにする必要がある。

※ 今後、熊本大学教育学部と協働しながら、「長期自然体験活動における子供と保護者の変容Ⅱ」についてまとめていく。